

第1回秦野市伊勢原市環境衛生組合クリーンセンター 施設検討委員会議事録要旨

1 日 時 平成19年7月23日(月)午後2時00分～午後5時00分

2 場 所 秦野衛生センター会議室

3 出席者

(1) 委 員

ア 組合議会 込山委員、宮坂委員

イ 学識経験者 横田委員(委員長)、野間委員、吉羽委員、内田委員、
栗原委員、荒井委員

ウ 行政職員 中村委員(副委員長)、屋宮委員、猪股委員、高橋委員、
代田委員、杉崎委員

(2) 事務局

ア 秦野市伊勢原市環境衛生組合(組合長、工場長、施設計画課長他)

イ(財)日本環境衛生センター

4 内 容

(1) 組合長あいさつ

(2) 委員委嘱、委員自己紹介、事務局自己紹介

(3) クリーンセンター施設検討委員会設置要綱について
事務局案で了承された。

(4) 委員長、副委員長の選任について
委員長：横田委員、副委員長：中村委員

(5) 委員会の進め方について

ア 全体スケジュール等

- ・ 事業方式(公設公営、公設民営、民設民営)についての検討結果は、第3回委員会後に中間報告し、発注方式に係る事項及びその他必要な事項の検討結果は、平成20年度末に組合長に提言する。
- ・ 事務局案で了承された。

イ 会議の公開（会議、議事録）

- ・ 会議は原則公開とするが、非公開とする場合は、委員会に諮って決定する。この場合、可能な限り直近の会議で決定する。
なお、傍聴を考慮して会場を選定する。
- ・ 議事録は、委員名を省略した要旨録とする。
- ・ 事務局案で了承された。

(6) 施設整備の概要について

ア これまでの経過等

- ・ 資料に基づき経過説明。
- ・ 処理方式については、平成16年度から17年度に設置したごみ処理技術検討委員会において「ストーカ式焼却+灰溶融」、「流動床式ガス化溶融方式」の2方式に絞り込んでいるが、今後さらに絞るか否かは委員会の検討過程の中で判断すればよいのではないかとの意見があった。

イ 施設の規模

- ・ 計画目標年度（平成30年度）の施設規模200t/日は、既存の90t炉に替わる施設を、現時点では有機性廃棄物資源化施設（バイオガス施設）とし、そこから発生する残渣を処理対象に含め算出したと説明があった。

ウ 施設整備のコンセプト

- ・ ごみ処理技術検討委員会時と同じ基本コンセプトで了承された。

〈基本コンセプト〉

- ① 人と環境にやさしい安心、安全な施設づくり
- ② 弘法山公園と調和したまちづくり
- ③ ごみの持つエネルギーを有効利用できる施設づくり
- ④ 資源循環型社会のシンボルとなる施設づくり

(7) 事業方式について

- ・ 余熱利用施設の具体案が決まっていない現時点では、PFI事業とするか否かの判断はできない。今は組合が公設・公営でやらざるを得ない

状況にあると考えられるので、ある程度地元との話し合いが整ってきた段階でその結果を反映するのがよいのではないかとの意見があった。

- ・ P F I の導入については、民間事業者提案の審査に必要な人材の不足や時間的な問題があり、現在予定している事業スケジュールのなかでは、基本的に選択の余地があるか疑問に思うとの意見があった。
- ・ P F I、公設公営で行ったときのメリット、デメリットを定性的な議論だけで結論付けるのは難しい。V F Mにより経済性を比較する必要があるとの意見があった。
- ・ 以上の意見を踏まえ事業方式については、次回委員会での方向付けを目指すこととなった。

(8) 発注方法等について

- ・ 事業方式との絡みもあるところなので、事業方式決定後に審議することとなった。
- ・ 事業者選定方法については、見積書の提出により価格を誘導するおそれがあるので、慎重に取り扱う様にとという意見があった。

(9) その他（次回日程等）

- ・ 第2回委員会の開催日は、平成19年11月5日（月）午後2時から場所については、検討し後日連絡する。
- ・ 第2回委員会は公開とする。